

■<sup>しき</sup>史記 <sup>こうぶんほんぎ</sup>孝文本紀第十 <sup>しばせん</sup>漢司馬遷撰 <sup>えんきゅう</sup>延久5年 <sup>おおえのいえくに</sup>大江家国写

『史記』は中国前漢の司馬遷（前 145-86?）の書いた歴史書です。伝説上の黄帝から司馬遷と同時代の武帝の治世までを描いています。全 130 巻で構成されていて、日本へは奈良時代（710-784）に伝わりました。本書は平安時代の延久5年（1073）に大江家国が書写したものの一部です。『史記』の写本として年代が明記された最古のものです。

■<sup>るいじゅうこくし</sup>類聚国史 第二十五卷 平安時代写

日本政府が奈良・平安時代に編纂した『日本書紀』等6つの歴史書は、まとめて「六国史」と呼ばれています。いずれも時系列順に記事を並べた、漢文の歴史書ですが、『類聚国史』はその記事を内容別に分類し、実用的に再編集したものです。編集者は菅原道真で寛平4年（892）に成立したとされています。もとは200巻ありましたが、応仁の乱（1467-1477）以降散逸し、現在残っているのはそのうちの62巻です。本巻は平安末期までの時期に書写されたものです。